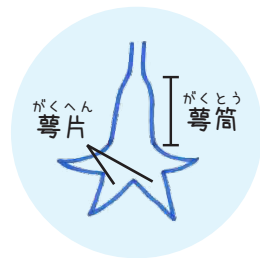


あくがるる 心はさても やまざくら
散りなんのちや 身にかへるべき

西行

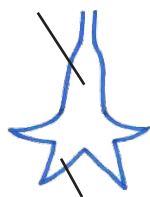
見分けは“うら”がポイント

日本に自生する野生種の桜は13種あり、その掛け合わせによって、300種以上の栽培品種があると言われます。種類が多く、細かな識別をするのは至難の業。しかし、花の裏側にある「^{がくとう}萼筒」や「^{がくへん}萼片」に着目すると、特徴がよく表れていて見分けのポイントとなります。桜をみかけたら、裏側にも注目してください。



野生種

細長いつりがね形
表面はなめらか

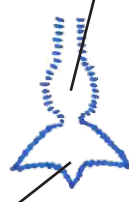


細長い三角形



野生種

つぼ形



毛が多い・縁がギザギザ

ヤマザクラ【山桜】

開花と同時に赤みのある若葉が開く。花弁は5枚でほぼ白色。遠目からは、白い花と赤っぽい若葉とが混ざりあって全体がピンクに見える。温暖な気候を好む。西日本で最も一般的な野生の桜。低山にも多い。

エドヒガン【江戸彼岸】

満開の頃にも葉はほとんど伸びない。広く分布しているが、自生地は限られ、大きな河川のそばの斜面に生えていることが多い。花弁は白色からピンクまで幅がある。小さな花が枝に集まってつく。



野生種

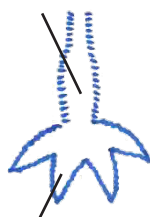
タカネザクラ【高嶺桜】

別名ミネザクラ。亜高山帯に自生する。開花と同時に若葉が開く。花弁の大きさはやや小ぶり。色は白色から淡いピンクまで幅がある。高地や積雪の多い場所は樹高が低く、風雪の弱い場所では5m以上になる。

太いつりがね形
毛はある or ない縁のギザギザは
ある or ない

栽培種

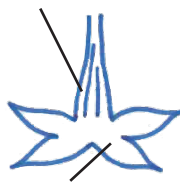
細長いつぼ形



毛が多い・縁がギザギザ



栽培種

長めのろうと形
表面に凹凸がある

細長い卵型で先がとがる

ソメイヨシノ【染井吉野】

日本で最も広く栽培されており、桜の開花観測には各地のソメイヨシノの標本木が対象となる。若葉は花が咲き終わってから伸びるため、満開時には木全体が花に包まれたように見える。花弁は白色に近いピンク。

ギョイコウ【御衣黄】

開花と同時に若葉が開く。花弁は淡い黄緑色で、はっきりとした緑色の筋が入っている。満開になった後、徐々に中心部が赤く色づいていき、散る間際には、赤みが増す。江戸時代の栽培記録も残っている。